

# 政務活動報告書

会 派 名      創 和 会

年 月 日	令和 4 年    12    月    14    日    ~    令和 4 年    12    月    15    日			
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	防衛省(新宿区)、衆議院第二会館(千代田区) 弘前駅 ~ 新青森駅 ~ 東京駅 ~ 御茶ノ水駅 ~ 市ヶ谷駅 ~ 港区1泊 ~ 東京駅 ~ 新青森駅 ~ 弘前駅			
相手方 (会議名等)	要望活動 : 木村次郎 防衛大臣政務官、吉田圭秀 陸上幕僚長 勉強会 : 防衛省整備計画局防衛計画課 河島慎吾、防衛政策局防衛政策課 鈴木健太郎			
参加議員名	尾崎寿一、木村隆洋			
活動の概要	別紙のとおり			
	※会議・研修資料等があれば、添付してください。			
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額	領収書番号	支払証明書番号
	旅費	96,420	円	1
			円	
			円	
			円	
			円	
	合計額	96,420	円	
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり			

# 政務活動報告書

創和会 木村隆洋

日時 令和4年12月14日(水)、12月15日(木)

場所 防衛大臣政務官室、衆議院第二議員会館

## 政務活動の目的

- ・木村次郎防衛大臣政務官への要望活動
- ・防衛省から安保関連3文書改定について、陸上自衛隊再編計画(特に第9師団)についての勉強会を開催

## 要望活動について

9月22日、弘前市議会議員有志による防衛議員連盟を設立した。設立の趣旨・目的は陸上自衛隊 弘前駐屯地の充実・発展に寄与することである。年末に向けて防衛大綱の見直しを控えている中、陸上自衛隊の再編計画も行われる予定となっている。弘前駐屯地は弘前商工会議所を中心とした市民活動によって誘致され、設立から54年が経過している。

今回の要望は、陸上自衛隊の再編計画を控える中、弘前駐屯地に関して体制を維持・強化に関する要望である。当市において、弘前駐屯地と弘前大学は、地域経済を支える観点からも非常に重要である。国全体が北朝鮮のミサイル発射、中国の軍事増強により南西シフトを敷く中、ロシアに対する北の防衛を考慮すると第9師団の役割は大きいと考える。その中でも、特に、陸自弘前駐屯地に関しては地元住民としてはぜひ存続だけではなく、更なる体制強化を求めらるるものである。

木村次郎政務官からは、地元選出の衆議院議員ですので、地域事情は十分理解をしたうえで、防衛省全体、国全体として前向きに検討していくとのお話を頂いた。今後、弘前駐屯地の体制の維持・強化については関係団体と協力しながら声を上げていかなければならないと考える。

## 勉強会について

防衛省からお二方からお話を伺った。我が国の防衛力について、核の脅威については米国の拡大核抑止をもって対応する。核以外のあらゆる行動に対応するには7つの柱で防衛力を抜本的に強化する。7つの柱とは我が国への

侵攻そのものを抑止するスタンド・オフ防衛力、総合ミサイル防空能力、相手の侵攻を阻止・排除する無人アセット防衛能力、領域横断作戦能力、指揮統制・情報関連機能、迅速かつ粘り強く買うする機動展開能力、持続性・強靱性の7つとなっている。

防衛力強化が昨今議論されているが、防衛関係費の約9割は国内向けの支出であり、日本経済の安定的な成長には極めて重要である。今後の防衛力の抜本的強化は国内産業に寄与し、防衛生産・技術基盤の維持強化は日本の経済成長の観点からも重要である。

課題の一つとしては、自衛官の採用環境が厳しい状況にあるという点である。自衛官の定数に対し充足率は約9割と定数を割っている状態が続いている。現在、新規採用増や定年延長などに加え、ハラスメント対策強化などにより働きやすい自衛隊へ待遇改善を図っている。

自衛隊装備に関しては無人アセット化が進んでいるが、無人アセットが進んでも操作する人員を確保していかなければならない点も課題として残る。

陸上自衛隊の改編については、令和元年度～令和5年度の「中期防衛力整備計画」によって、第9師団は地域配備部隊として有事の際にも地域に残り、広域に所在する重要施設等の作戦基盤を防衛しなければならない。

また、弘前駐屯地に関しては、偵察隊が廃止になり、盛岡の戦車大隊と統合

され新たに偵察戦闘大隊となることにより、約160名の人員が削減することとなる。この点に関しては、地域経済の観点からもサイバー対策等の新たな部隊の創設を要望した。

北朝鮮のミサイル発射、中国の軍事力増強など我が国を安全保障環境は一段と厳しさを増している。弘前駐屯地を抱える当市も、自衛隊と共存共栄しながら、防災・有事の際も含めて、これまで以上に連携を強化する必要がある。

12/14

防衛省へ出向き 防衛大臣政務官へ陸上自衛隊  
弘前駐屯地の体制維持、強化に関する要望書を提出した。  
本市には商工会議所を中心とした市民活動により誘致  
した弘前駐屯地が設立されて54年が経ち、地域と共に  
歩んできた弘前駐屯地は防衛だけでなく観光又災害時の  
支援、地域経済の観点からも地元にとってはなくてはならぬ  
存在であります。本年末には防衛計画の大綱の見直しも  
予定されており、陸上自衛隊においても今後の配備について  
再編計画が行なわれる可能性があるかと認識しており、  
これまで地域と共に歩んできた弘前駐屯地について再編ある  
ことなくこれまでの体制を維持し、更なる強化をしていただく  
要望し、要望書を提出した。

午後 陸上自衛隊幕僚長（元弘前駐屯地司令）

吉田圭秀氏を表敬する。

要望書提出、弘前勤務時の思い出話に花を咲かす。

12/15

「防衛議員連盟」勉強会

10:00

議員会館

議題 1. 「安保関連の文書改定の方角性について」

防衛省 防衛政策課 鈴木健太郎 統括班長

議題 2. 「今後の陸上自衛隊再編計画について」

(特に第9師団の再編等について)

防衛省 防衛計画課 業務計画課第一班

河島慎吾 防衛部員

議題 1. 安全保障政策における自衛隊の位置付け

我が国の安全保障政策は外交政策をはじめ様々は取り組みから構成されているが、防衛力は我が国に直接脅威が及ぶことを防止し、脅威が及ぶ場合にはこれを排除するという国家安全保障の最終的は担保となるもの。

武力攻撃事態等から大規模災害に至るあらゆる事態において「最後の砦」として中核を担うのは自衛隊。

我が国を取り巻く安全保障環境

国際社会は戦後最大の試練の時を迎え、

既存の秩序は深刻な挑戦を受け新たな

危機の時代に突入。我が国はロシア、中国、

朝鮮半島の最前線位置。

尖閣諸島、台湾、南シナ海を巡る問題にも  
直面

ロシアによるウクライナ侵略の教訓に防衛目標の  
考え方

防衛力の方向性、防衛力強化の目標と

概ねのタイムライン（防衛力の5年以内の

抜本的強化が必要）

各分野別に多くの課題があり、5年後、

10年後まで確実に課題解決に向け努力を

していく

高度な話であり、大変危険な話になった。



議題 2. 第9師団の改編について

令和5年末において弘前駐屯地の偵察隊  
約160名廃止 ということでは弘前市にとって  
経済的損失が大きいのと考える。今後  
他の部隊の弘前移駐を要望したい。

防衛大臣政務官



衆議院議員  
木村次郎



陸上幕僚長

陸将 吉田圭秀



〒一六二一八八〇二  
東京都新宿区市谷本村町五番一号  
電話 (〇三) 三二六八―三一―

防衛省  
木村防衛大臣政務官室

小池 菜月



〒一六二一八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五―  
TEL: 〇三(三二六八) 三一― 内線 二〇〇二二  
FAX: 〇三(五二六九) 三二四二  
E-mail: [Redacted]

防衛省

木村防衛大臣政務官 副官

三等陸佐

兼子 航



〒一六二一八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五―  
TEL: 〇三(三二六八) 三一― 内線 二〇〇二二  
FAX: 〇三(五二六九) 三二四二  
E-mail: [Redacted]

防衛省

木村防衛大臣政務官 秘書官

磯間 遼太



〒一六二一八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五―  
TEL: 〇三(三二六八) 三一― 内線 二〇〇二二  
FAX: 〇三(五二六九) 三二四二  
E-mail: [Redacted]

防衛省防衛政策局防衛政策課

総括班長

鈴木 健太郎

〒一六二一八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五十一  
電話 〇三三三二六八一三一 内線 〇三六一  
FAX 〇三三三二六八一三一  
メール



防衛省 整備計画局  
防衛計画課 業務計画第1班

防衛部員 河島 慎吾  
Kawashima Shingo

〒162-8801  
東京都新宿区市谷本村町5-1  
TEL : 03-3268-3111 (内線20495)  
E-mail : [REDACTED]



防衛大臣政務官  
木村 次郎 様

# 要 望 書

令和4年12月14日

弘前市議会議員有志による防衛議員連盟

# 陸上自衛隊 弘前駐屯地の体制維持・強化に関する 要望

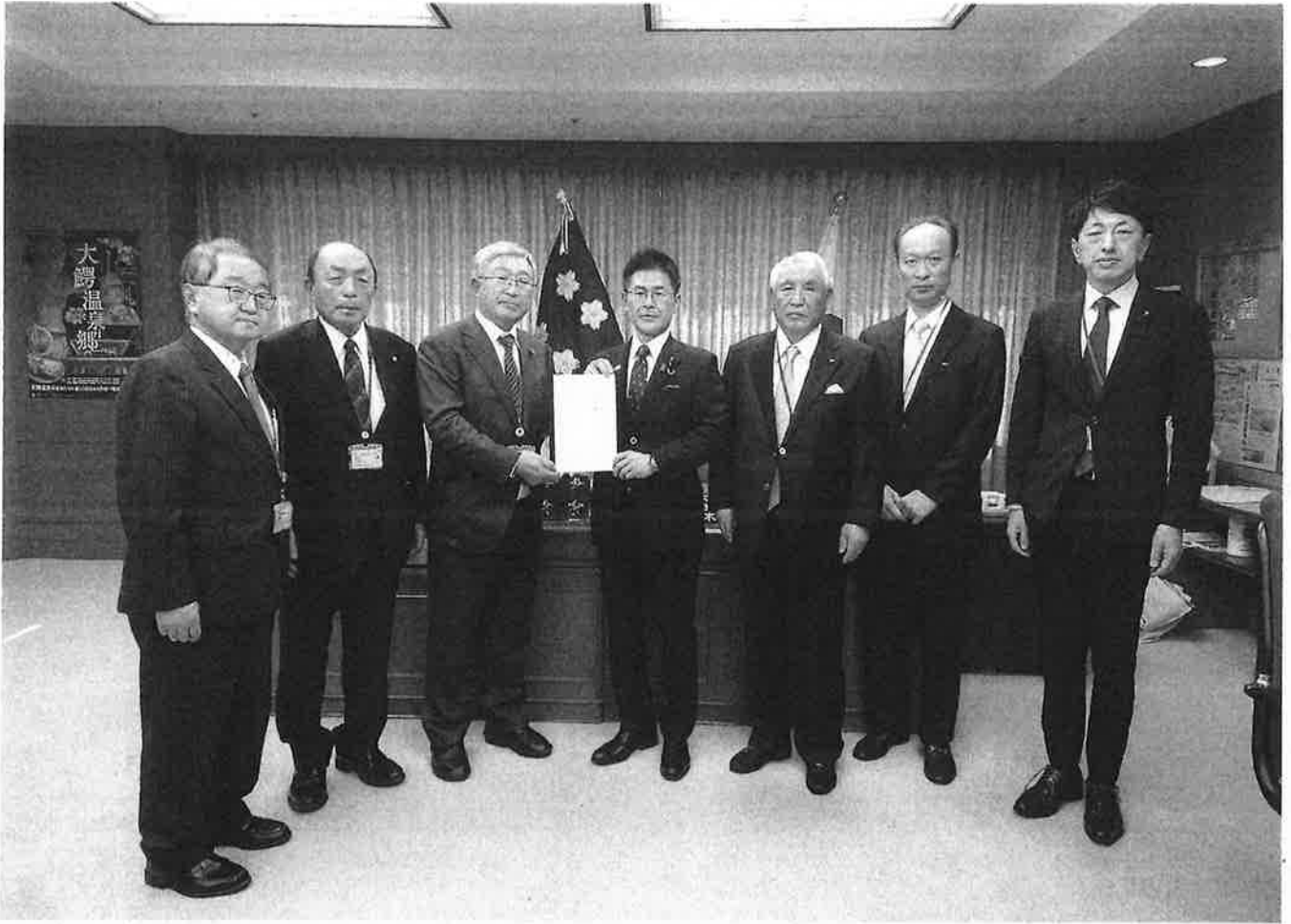
武力によるロシアのウクライナ侵略、中国による尖閣諸島周辺への領海進入、北朝鮮による弾道ミサイル発射等、我が国を取り巻く安全保障環境はより一層厳しさを増しております。特に10月4日の北朝鮮による弾道ミサイル発射は、青森県上空を通過し、4000キロ飛行し太平洋上に落下しましたが、当市を始める青森県民に恐怖を与えました。

当市には商工会議所を中心とした市民活動によって誘致した弘前駐屯地が設立されて54年が経ちますが、地域と共に歩んできた弘前駐屯地は防衛だけではなく、災害時の支援、地域経済の観点からも地元にとってはなくてはならない存在であります。本年末には防衛計画の大綱の見直しも予定されており、陸上自衛隊においても、今後の配備について再編計画が行われる可能性があることを認識致しております。これまで地域と共に、地元市民と共に歩んできた弘前駐屯地について、再編することなく、これまでの体制を維持し、更なる強化をして頂くことを要望いたします。

令和4年12月14日

弘前市議会議員有志による防衛議員連盟 会長

尾崎 寿一





# 政務活動報告書

会 派 名      創和会

年 月 日	令和 4 年    12    月    26    日    ~    令和 4 年    12    月    28    日				
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	川越市役所(川越市)、アオーレ長岡(長岡市) 弘前駅 ~ 新青森駅 ~ 大宮駅 ~ 川越駅(川越市1泊) ~ 大宮駅 ~ 長岡駅(長岡市1泊) ~ 大宮駅 ~ 新青森駅 ~ 弘前駅				
相手方 (会議名等)	川越市:産業観光部観光課 石黒硬治、吉田俊朗 長岡市:市民協働推進部市民協働課 五十嵐智行課長、近藤奈緒				
参加議員名	尾崎寿一、竹浪敦、石山敬、木村隆洋、蒔苗博英				
活動の概要	別紙のとおり				
	※会議・研修資料等があれば、添付してください。				
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額		領収書番号	支払証明書番号
	旅費	365,150	円	2	
			円		
			円		
			円		
			円		
	合計額	365,150	円		
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり				



12/27

## 川越市産業観光部 観光課

## 観光施策について

大正11年市制施行。平成15年中核市に移行。

都心から30~60kmに位置

川越の中心市街地の構成

北部市街地は観光(歴史的)ゾーン

南部に駅が出来たことにより一時は衰退したが  
市民等による保存運動などを契機に数多くの  
復興事業が手がけられた。

南部市街地は商業(近代的)ゾーン

駅を中心に金融、サービス、商業が集積、

最も人の動きがあるエリア

観光資源とした蔵造りの町並

川越の大火(明治26年)により蔵造りの耐火性が  
証明され明治後期数多く建てられた。

昭和後期に取り壊しも進んだが市民等による

保存運動が起り行政等も連動して歴史的地区

環境整備地区(歴みろ)事業を実施

平成11年に国の重要伝統的建造物群保存地区に  
選定された。

時の鐘 「残したい日本の音風景百選」に選定  
川越氷川神社 県の重要文化財、縁結びの神様  
菓子屋横丁 20数軒工夫を凝らした駄菓子製造販売  
川越まつり 川越まつり会館

歩いて廻れる、集中してあるのが強みと感じた。

コロナウイルス前年の観光客は年間 776万人。

外国人観光客は30万人ほど

観光振興計画の基本理念「世界に発信しよう!

EDOが粹づくまち小江戸川越」

基本方針をしっかりと定め具体的政策に落とし

込んでいる数が多いと感じた。

観光地における課題解決に取り組んでいる

1. 観光時間が日中の短時間となり滞在時間が  
伸び悩んでいる

2. ICT活用が不十分である

3. 外国人観光客の受け入れ環境が不足している

4. 観光客増加により交通の安全性不足と  
ゴミ環境問題が生じている

5. 地域内外の連携不足

観光都市弘前としての課題もあることから参考にしていく  
べきと考える。

12/27

15:15 ~ 17:00

アオール長岡 西棟 4階 第二委員会室

市民協働推進部 市民協働課 課長 五十嵐 智行

「アオール長岡」はJR長岡駅前の旧長岡市厚生会館及び  
周辺の公園等を含め下約1.5haの区域に厚生会館機能を  
受け継ぐ「アリーナ」冬季でも様々な活動ができる

「ナカドマ（屋根付き広場）」市役所本庁機能を一体的に  
配置した複合施設。

約35,000㎡の延床面積の半分以上が交流のスペース!!  
まろなか型公共サービスの核となる施設との連携と波及  
効果が期待される「市民協働交流の拠点」。

### 特徴

1. 省CO<sub>2</sub>技術の導入による環境配慮  
→ 一般家庭220世帯分に相当する1,050tのCO<sub>2</sub>の削減
2. 複合施設の一体的維持管理
3. 防犯、セキュリティ対策

### アオール長岡の運営の特徴

利用する市民が運営、行政は下支え。  
ルールを作らない自由度の高い運営

・ NPO法人 ながおか未来創造ネットワーク

・ NPO法人 市民協働ネットワーク

指定管理制度ではなく市の直営でもよい

市民が使いやすい使用料と利用時間

まさに市民目線であり実にうまく運営されており感心した。

## 会派政務調査費による行政視察報告書

創和会 蒔苗博英

1、研修日時 令和4年12月26、27日

2、行政視察内容

### ①川越市の観光施策について（埼玉県川越市）

川越市は都心から一時間以内という事もあり、交通利便性良い事から観光誘致を積極的に進めている。その内容は、川越駅西口周辺の南部市街地の近代的な商業ゾーン。更には北部市街地の歴史的ゾーンの二か所を観光スポットとしている。今回説明を受け、感銘したのは、明治後期に造られた蔵造りの町並みの保存活動とその町並みについてである。明治26年に川越の大火によって蔵造りの耐火性が証明されたことから、この地域には明治以降多くの蔵が軒並みを揃えた。しかし、老朽化と近代化が進んだ昭和後期には取り壊しも進んだが、地域の住民や市民によって、保存運動が起こり数多くの復興事業が手掛けられている。行政としては、電線の地中化事業や、道路改良を含めた歴史的地区環境整備を行い、平成11年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。現在はイベント事業を行う小江戸川越観光協会、商店街の支援を行う川越商工会議所、小江戸蔵里の運営を行う指定管理者の(株)まちづくり川越、データ収集・分析を行う(一社)DMO川越などと組織運営し、行政として観光客の受け入れ環境整備やインバウンド、川越まつり、観光施設の運営等を行っている。観光客数もコロナ前までは安定して、年間700万人前後で推移していたが、令和2年からコロナの影響で50%減となっている。他観光地と比較してコロナ禍でも減少率は少なく推移している。都心から1時間以内という事で、日帰りの観光客が多く、宿泊対策にも力を入れて行きたいとも述べていた。

弘前市も歴史的建造物や城下町ならではの街並み整備等継続的にを行い、観光客の誘致に努めて行かなければならないと痛感した。

### ②複合施設アオーレ長岡（新潟県長岡市）

平成24年4月1日共用開始の複合施設アオーレ長岡。中心市街地の賑わい創出をコンセプトに長岡駅前の商業施設隣接し、駅からはスカイデッキが繋がっていて、雨や雪、風にも当たらず移動ができる。施設の中には、市役所総合窓口をはじめとする市民のエリアが入り、徒歩一分以内に商工エリア、農林・建設エリア、まちなか子育てエリア、などが分散している。アオーレ長岡はシティープラザの機能を持ち、市民が利用できる、ナカドマ、ホワイエ、市民交流ホール、アリーナなどがあり、様々なイベントが目白押しある。特にアリー

ナでは、Bリーグの新潟アルビレックスBBがホームアリーナとしているほか、大相撲、プロレス、アイススケートなどにも利用されている。運営に関しては、指定管理制度ではなく、市民の思いを実現するNPO法人が運営し、市民一般利用は基本的に無料。飲食も、販売もルールを作らない自由度の高い運営を実施している。その為か施設稼働率は80%以上で、うち市民利用が81.3%、行政利用が18.7%と高い利用となっている。駅前、商業施設が近隣にある為、市民が集まりやすく、アオーレ長岡ですべてのイベントが出来る。まさに市民の拠り所であり、いきいきと活動する交流の拠点としての成功事例であると強く感じた。

# 政務活動報告書

創和会 木村隆洋

日時 令和4年12月26日～28日

## 政務活動調査項目

- ・川越市の観光施策について
- ・長岡市のアオーレ長岡について
- ・川崎市の観光施策について

人口約35万3千人の埼玉県川越市は都心から30分～60分程度とアクセスも良く、都心のベッドタウンだけではなく、手軽な観光地としても発展している。蔵造りの街並みを活かし、平成初期に電線類地中化事業や歴史的環境整備事業を実施し、観光地として整備してきた。

ピーク時である令和元年には入込観光客数は約776万人、外国人観光客数は約31万人となり、特に外国人観光客数は7年間で約7倍と驚異的な伸びを見せている。新型コロナの影響で観光客数は激減したが、令和4年からは急速な回復を見せており、都心からの近場の観光地として、賑わいを取り戻している。現在、平成28年からの十か年計画である第二次川越市観光振興計画の後期期間である中、基本理念として「世界に発信しよう！EDOが枠

づくまち 小江戸川越」を掲げ、さらにせかいに発信しようとしている。

これだけ魅力的な川越市でも、日中の滞在時間が短い、ICT活用が不十分、外国人観光客の受け入れ環境の不足、交通の安全性不足、ごみ環境問題など様々な課題が生じている。都心から近すぎるが故に、長時間滞在してもらい所謂お金を落としてもらうことが最大の課題と感じる。

当市も観光施策に力を入れてはいるが、四大祭り頼りなのが現状である。祭りに頼らない、通年観光を実現するためには、地域資源の掘り起こし、自分たちでは気付いていない新たな観光資源の見つけ出し、発信する必要がある。またこれまで以上に、当市だけではなく、グランピオニーを活かした地域間連携をした観光パッケージを作っていかなければならない。

#### ・長岡市のアオーレ長岡について

人口約26万人の長岡市は、旧本庁舎が耐震不足等で移転の必要があり、また、市町村合併により7カ所に本庁組織が分散していたことで、中心市街地のまちなかの数カ所に新たに市役所機能を移転整備し、その拠点となるのがアオーレ長岡である。

ナカドマ、アリーナ、大小のホール、市役所の執務室、総合窓口、市議会



議場などからなるアオーレ長岡は市民にとって、市役所機能だけではなく、市民協働・市民交流の拠点となっている。ナカドマにおいては様々なイベントが行われるだけではなく、結婚式やファッションショー、高校生のラーメン選手権など市民の自発的な利用や、手作りによるイベントが活発に行われている。また、アリーナでは新潟アルビレックスBBのホームアリーナとなっており、市民にとってプロスポーツを身近に感じられる施設となっている。

市役所機能としては分散によるサービス低下を防ぐために、ワンフロアにワンストップサービスとなる総合窓口を配置し、市民への利便性が向上している。平日だけではなく、休日も午後5時まで窓口業務を行っているのは、非常に珍しいと思われる。

アオーレ長岡の最大の特徴としては、運営を行政が行うのではなく、NPO法人が運営している点である。市民の想いや自由な発想を実現し、自由度の高い運営を実現するためにNPO法人がアオーレ長岡を運営することによって、アオーレ長岡の理念である「市民が主役」「市民が成長させる」ことを実現可能にしている。

視察調査に伺った日も平日の午後であったが、学生が勉強したり本を読んだり、待ち合わせに利用していたり市民の憩いの場であると感じた。市民が

利用しやすい場所を中心市街地のまちなかに整備し、新たにまちなかに人を呼び込む。長岡市では中心市街地の店舗数も増加し、歩行者数も増加している。中心市街地活性化のためには、市民が利用しやすい「場」の創設が必要であると強く感じた。

令和5年1月4日  
会派「創和会」 石山 敬

## 令和4年度政務活動報告

1. 日 程 令和4年12月26日(月)～28日(水)

### 2. 研修報告

#### (1) 埼玉県川越市「観光施策について」

川越市は、江戸まで続く新河岸川を使って舟で米や野菜などの食料を運ぶ重要な場所として栄えた街である。

代々譜代大名が赴任しており、江戸の祭りや文化を持ち帰ったことで発展をしてきた。

現在でもその文化を残しており、現代の小江戸と呼ばれる情緒ある街並みが広がっている。

川越に蔵造りの町並みが形成される契機となったのは、明治26年の大火である。この未曾有の大火災は、川越商人たちの防火対策への意識の変革をもたらした。川越商人は江戸時代以来、新河岸川の舟運などによる江戸との商いで富の蓄積があり、復興のための財力は十分にあったようだが、同じ惨事を繰り返さないよう、建物そのものを防火建築にすることを考えた。

大火の際に焼け残った建物が伝統的な工法による蔵造り建物であったことに着目し、商人たちは競って蔵造り建築による店舗(店蔵)を建てた。

今の東京では見ることのできない江戸の面影をとどめており、平成11年12月には国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、平成19年1月には「美しい日本の歴史的風土100選」に選定された。

現在の川越市の中心市街地の構成として、北部と南部に大きく分けられる。

北部市街地は観光(歴史的)ゾーンとして、蔵造りの町並みを中心として、趣のある地区である。一方で、南部市街地は商業(近代的)ゾーンで、3駅を中心として、金融・サービス・商業などが集積し、最も人の動きがある地区である。

コロナ禍により、入込観光客数は半減したが、今年度は、コロナ禍前の令和元年よりも観光案内所に尋ねた件数が上回っており、コロナ禍前の水準に戻った。

川越市では今年度より第二次川越市観光振興計画を策定し、外国人も楽しめる新たな観光を作り出し、市域全体で観光まちづくりを進めることにより更なる観光客数の増加を目指す。

課題としては、滞在時間の伸び悩み、外国人観光客の受け入れ環境の不足、地域内外の連携不足など挙げられたが、観光関連団体と連携し課題解決に努める。

## (2)新潟県長岡市「アオーレ長岡について」

5,000人を収容できるアリーナ、開放感のあるナカドマ(屋根付き広場)、そして市役所が一体となった全国初の複合型施設、シティホールプラザ「アオーレ長岡」。

大通りに突然現れる巨大空間は、まちを行き交う人々の注目を集める。日本を代表する建築家・隈研吾氏の設計による、木の温もりにあふれた自由空間が、市民協働と交流の拠点として、様々な活動の舞台となっている。

「アオーレ長岡」は、JR長岡駅前の旧長岡市厚生会館及び周辺の公園等を含めた約1.5haの区域に、厚生会館機能を受け継ぐ“アリーナ”、冬季でも様々な活動ができる“ナカドマ(屋根付き広場)”、“市役所本庁機能”を一体的に配置した複合施設である。

約35,000㎡の延べ床面積の半分以上が市民交流のスペース。まちなか型公共サービスの核となる施設として、周辺施設との連携と波及効果が期待される「市民協働の拠点」である。

市役所移転の背景として、平成16年に発生した新潟県中越大震災をきっかけとなった庁舎の耐震性の不足、また3度の市町村合併により本庁組織の分散による不便さがあり、これまでの市役所の本庁機能を、アオーレ長岡をはじめ、まちなか数か所に集約配置し、多くの市民が集まりやすく利用しやすい市役所を目指した。

またこれまでの分散によるサービス低下を防ぐため、身近な手続きをワンフロアに集積し、行きやすい、案内しやすいワンストップサービスを提供している。このサービスを円滑に進めるため、市役所コンシェルジュ、窓口サービス専門員を配置している。

アオーレ長岡の全体の運営は、2つのNPO法人が担っており、ルールの作らない自由度の高い運営を行っている。結果、市民目線で運営することにより、高い施設稼働率と集客力を創出している。

## 視 察 概 要

- 1 12月27日(火) 埼玉県川越市 10時00分～11時30分  
＜調査事項＞ 観光施策について

## [市の概要]

川越市は埼玉県の中央部よりやや南寄り、武蔵野台地の北東端に位置している。土地は概ね平坦で、北東部は水田、南西部は畑地帯に2分されている。気候はほぼ温和で、雪害などにはほとんど無縁な土地である。

江戸時代には川越藩の城下町として栄えた都市で、明治22年に市町村制施行により川越町となり、大正11年に仙波村を合併して県内で最初の市制を施行した。また江戸と深い交流があって、今も江戸の情緒ある町並みが残っていることから「小江戸」と呼ばれている。城跡・神社・寺院・旧跡・歴史的建造物が多く、国から「歴史都市」に認定されている。戦災や震災を免れたため歴史的な街並みが残っており、市内の観光名所には年間約732万人もの観光客が訪れる観光都市である。海外のガイドブックに紹介されることも多く、最近では外国人旅行者が多い。

令和4年4月1日現在で人口は352,896人で埼玉県内ではさいたま市川口市に次ぐ人口である。

## [説明の概要]

川越市では豊富な観光資源をもとに第二次川越市観光振興計画が施行されている。10ヶ年計画として前期が平成28年度～令和2年度・後期が令和4年度～令和7年度で計画されている。ただ、新型コロナウイルス蔓延のため、前期計画を平成28年度～令和3年度、後期を令和4年度～令和7年度へと変更されている。基本理念は「世界に発信しよう！EDOが粹づくまち 小江戸川越」と称して、4つの基本方針【①新たな観光をつくりだそう。②外国人も楽しめる川越を演出しよう。③安心して観光を楽しめる環境を作ろう。④地域全体で観光まちづくりを進めよう】を掲げている。

それぞれの基本方針の具体的内容だが、【①新たな観光をつくりだそう】に関しては、観光資源の発掘・磨き上げ、新たな観光の取り組み、観光と他産業との連携、教育機関との連携、旅行会社、交通事業者との共同企画の開発、観光エリアの拡大、滞在型観光の推進、情報発信の戦略検討。【②外国人も楽しめる川越を演出しよう】に関しては、時勢を捉えた国内外への情報発信と受入環境整備、外国人観光客を温かい気持ちで迎える観光まちづくり、伝統文化の発信による観光誘客。【③安心して観光を楽しめる環境をつくろう】に関しては、快適なまち歩き空間の創出、完全かつ円滑なまち歩きの実現、

快適な観光インフラ整備、リピーターを増やす仕掛けづくり、観光キーパーソンの育成、伝統の保存継承と担い手育成。【④地域全体で観光街づくりを進めよう】に関しては、観光資源の発掘・磨き上げ、新たな観光への取り組み、観光と他産業との連携。以上が挙げられている。

また調査の結果、以下の課題が挙げられている。

A・観光時間が日中の短時間となっており、滞在時間が伸び悩んでいる。B・ICTの活用が不十分である。C・外国人観光客の受け入れ環境が不足している。D・観光客の増加により交通の安全性不足とゴミ環境問題が生じている。E・地域内外の連携が不足している。

課題解決の為に多くのデータを収集して対策を練っている。その中でも携帯電話会社と連携して携帯電波で人の集まる時間や移動時間を調査して安全な観光を目指して計画を進めている。

#### [考察・所感]

川越市は歴史的建造物や当時の町並みを残して観光資源としては非常に豊富である。しかしこれは弘前市も決して見劣りするものでもなく、弘前市としても観光資源を十分に活用すればもっと観光都市としての魅力を発信できるはずである。川越市は観光に向けた計画を簡潔・明確にしてる為に説明を受けた時にも非常にわかりやすいものである。強いて違いを挙げれば川越市は関東中心部にあり都心もすぐ違い。誘致するための交通機関や宿泊施設の充実も求められる。そのために他産業との連携も十分にとって観光産業をもっと発展させるべきである。

また、古い町並みに商店がずらりと並ぶ景色は観光都市ならではである。一日中観光して過ごせるまちづくりをすることで来訪者も増やせるのではないだろうか。



2 12月27日(水) 新潟県長岡市 15時15分～17時00分  
＜調査事項＞ アオーレ長岡について

[市の概要]

長岡市は新潟県の中南部に位置する市である。新潟県中越地方の中心都市であり、長岡都市圏を形成している。

長岡市の中央部は信濃川により形成された沖積平野に位置し、江戸時代には長岡藩の城下町として栄えた。戊辰戦争と第二次世界大戦の二度に渡って市の中心部は壊滅的被害を受けるが、共に不撓不屈の精神により復興を遂げ現在に至る。それに因み、市の紋章は不死鳥をイメージして「長」の文字を図案化したものになっている。かつての古志郡や三島郡の大部分を占める他、蒲原郡・魚沼郡・刈羽郡の一部にも跨る市域をもつ。

人口は令和4年4月現在で約26.2万人で新潟市に次いで二番目に多い。長岡まつり大花火大会で知られる。

[説明の概要]

アオーレ長岡は長岡市役所本庁昨日を含めた複合施設である。また市民協働・交流の拠点にもなっている。この場所は元々長岡城二の丸跡→長岡市公会堂→厚生会館と姿を変え、市民にとって特別な場所だったが老朽化により建て替えを検討した結果アオーレ長岡の建設が決定した。また市役所移転の背景には、平成16年の中越大震災で旧本庁舎耐震性不足の認識、三度の合併で庁舎スペースの不足、市役所機能の分散。中心市街地のにぎわい創出、交通弱者対策が挙げられる。

建物は【まちに開けた“ナカドマ”】を基本コンセプトに、誰もが気軽に立ち寄り活動できる空間、様々な機能がナカドマに面する連携が容易な配置になっている。

主な施設として、24時間開放されているナカドマ。様々な野外イベントとしても活用されており、屋根があるため天候に左右されることはない。また大規模なアリーナ施設があり、主にプロバスケットボールの試合が行われている。他に多目的に使えるホールや大きなガラス張りで外から様子がはっきり見れる議場もある。

市役所を中心市街地へ移転する際の検討経緯として、平成15年5月に「中心市街地構造改革会議」が開かれた。この時点では市役所本庁舎の移転ではなく、行政機能を配置する構想だった。平成16年3月に構造改革会議の提言で行政機能を「郊外化による多極分散型」から「中心市街地への再集積」となり、「まちなか型公共サービス」という概念が導入された。その後市民、議会での議論で公共交通の利便性、コスト面、まちづくりの観点から中心市街地に移転することが最適との結論に至った。

アオーレ長岡内での行政サービスとして、身近な手続きをワンフロアに集約している。

来訪者に窓口を回ってもらうのではなく、一連の流れを来訪者はその場において役所の人間が入れ替わり窓口に来るシステムをとっている。また運営体制も「NPO法人ながおか未来創造ネットワーク」が運営を行っている。これにより市民目線による運営が出来るようになり、行政はバックアップを中心に支えている。

アオーレ長岡の理念は「市民が主役」そして「市民が成長させる」ことにある。市民の使いやすさを徹底的に追及して、一般利用は基本的に無料。運営もNPOが行い、ルール作りには市民が参加するようになっている。利用に関してはかなり自由度が高く、飲食や販売も可能である。

今後の展開としては、市民発意の活動・イベントの増加・普段使いの場として定着、賑わいの拡散を目指している。

#### [考察・所感]

市役所が市民の集う場となる発想は実に素晴らしい発想である。特にナカドマと称される一階フロアは屋根がある為に雨天のイベントも可能としている。長岡駅とも隣接しているため、公共交通機関を利用した移動がスムーズに出来る。実際市内の子どもたちの遠足や音楽イベントにも利用されているようだ。イベント開催には一般の人でも集まりやすく理想的な行政施設と言える。

ただ説明会で質問もしたが24時間開放されるということもあって、深夜の治安問題もそれなりにあるようだ。現在大きな問題は発生していないが、警備と監視カメラで十分な体制も出来ている。弘前市役所は交通的にも不便な場所にあるが移転となると簡単な話ではないが、長期的な目でこういった人の集う設備を考えていく必要がある。





時をつなぐ 未来をつむぐまち 川越



川越市議会

議長 小野澤 康弘

川越市議会事務局

〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3番地1  
TEL 049-224-8811(代表)



時が人を結ぶまち 川越

川越市議会事務局

事務局長

松本清一

MATSUMOTO SEIICHI

川越の山車は、江戸系川越型  
その優美性、機能性は、  
まさに絢爛豪華



〒350-8601 川越市元町1丁目3番地1

TEL : 049-224-6062

FAX : 049-224-5394

E-mail: [redacted]

HP: <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>

時をつなぐ 未来をつむぐまち 川越



川越市議会事務局 議事課

調査担当 主査

中村悟史

川越市役所

〒350-8601 埼玉県川越市元町1-3-1  
TEL 049-224-6067 FAX 049-224-5394



時をつなぐ 未来をつむぐまち 川越

川越市役所

産業観光部 観光課

観光企画担当 主査

いしごろ こうじ

石黒硬治

川越市マスコットキャラクター  
ときも

〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3番地1

TEL : 049-224-5940(直通)

FAX : 049-224-8712

E-mail: [redacted]

URL : <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>

川越市 産業観光部  
観光課 観光企画担当

吉田俊朗

Yoshida Toshiro

〒350-8601 埼玉県川越市元町1-3-1

TEL : 049-224-5940

FAX : 049-224-8712

E-mail: [redacted]

URL : <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>





NAGAOKA

# 松井一男

長岡市議会議長  
新潟県市議会議長会会長

〒940-8501

長岡市大手通一丁目四番地一〇  
電話〇二五〇三九一二二四四

長岡市議会事務局

議会総務課 政策調査係

主事

望月葵衣

Mochizuki Aoi

〒940-8501 新潟県長岡市大手通1丁目4番地10  
TEL. 0258-39-2244 FAX. 0258-32-0827

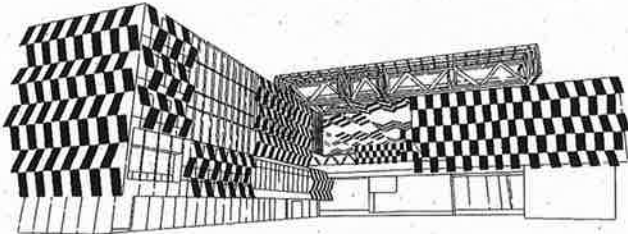
<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/>

錦鯉は約200年前に長岡で誕生しました。

志、未来へ。



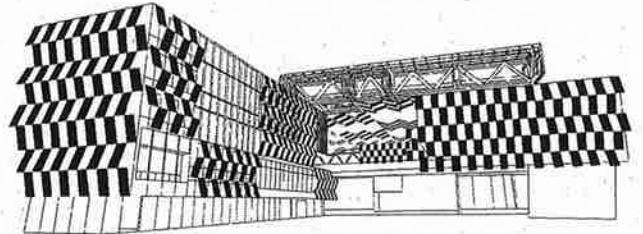
長岡市



長岡市 市民協働推進部  
市民協働課

課長 五十嵐 智行  
Ikarashi Tomoyuki

〒940-8501  
新潟県長岡市大手通1丁目4番地10  
シティホールプラザ「アオーレ長岡」東棟3階  
TEL: 0258-39-2291  
FAX: 0258-39-2308  
E-mail: [redacted]



長岡市 市民協働推進部  
市民協働課  
アオーレ交流係

主事 近藤 奈緒  
Kondo Nao

〒940-8501  
新潟県長岡市大手通1丁目4番地10  
シティホールプラザ「アオーレ長岡」東棟3階  
TEL: 0258-39-2288  
FAX: 0258-39-2308  
E-mail: [redacted]

